



土木建築殉職者慰靈塔建立さる

土木建築の業に従事し、工事にその尊き生命を捧げた人々のために、今回日本土木建築請負業聯合會の手によつて、芝増上寺境内に土木建築殉職者慰靈塔が建立せられ、去る3月21日盛大な落慶大法會が営まれた。

土木建築事業は一國の文化を象徴し産業の先驅となつて國民生活の根幹を爲すものであるが、我國に於ける斯業は明治維新以後急速度の發達を遂げ、今や我國の文化をして歐米諸國に比肩して遜色なき偉觀を呈せしめてゐる。然るに、その反面に於ては不幸にして此大事業の犠牲となつて、鐵道に、港灣に、河川に、橋梁に、將又水力發電工事に尊き一命を失ふ人々が年々多數に

上り、洵に悵悵に堪へざる處であつたが、日本建築請負業聯合會は明治以來の此等殉職者に對し、其英靈を祀つて永く菩提を弔はんが爲、昭和10年甲府市に開かれた同會の總會に於て慰靈塔建立を議決し、全國同業者の寄進を求めて茲に業界の靖國神社とも云ふべき慰靈塔が出事上つたのである

慰靈塔は別項の如く、その高さ37尺5寸間口40尺、奥行32尺で、塔内部は純金箔押へロイロタイル貼、金色燦然たる中に段を設け現在4,000名の英靈を奉祀してゐる。その結構敢て輪奐の美を誇るものではないが、巍然として天空に聳え、嚴然として動かざる磐石の塔は、殉職者の遺功を千載に頌し芳名を萬世に傳へる事であらう。